

(再掲)【用語の説明】

※1 環境負荷：

人の活動により環境に加えられる影響であって、環境保全において支障の原因となるおそれのあるものをいいます。

※2 自然エネルギー：

地球環境の物質循環システムの影響がきわめて少ないエネルギーのこと。

具体的には、太陽光・風力・地熱・バイオマス（生物資源）・水力などから得られる再生可能なエネルギーを指します。

※3 ユニバーサルデザイン：

年齢、性別、障がい、能力の如何を問わず、すべての人が利用することができるよう施設・建物・環境を設計（デザイン）することです。

※4 ユビキタス・ネットワーク社会：

欲しい情報がいつでもどこからでも、入手できる社会のことです。

※5 バリアフリー法：

高齢者、障がい者等の自立した日常生活及び社会生活を確保することの重要性に鑑み、公共交通機関の旅客施設及び車両等、道路、路外駐車場、公園施設並びに建築物の構造及び設備を改善するための措置、一定の地区における旅客施設、建築物等及びこれらの間の経路を構成する道路、駅前広場、通路その他の施設の一体的な整備を推進するための措置その他の措置を講ずることにより、高齢者、障がい者等の移動上及び施設の利用上の利便性及び安全性の向上の促進を図り、もって公共の福祉の増進に資することを目的とする法律。

※6 「栃木県ひとにやさしいまちづくり条例」：

すべての県民が個人として尊重され、あらゆる分野の活動に参加する機会を得るため、お年寄り、障がいのある人を含む誰もがあらゆる施設を円滑に利用できるよう、事業者の責務、県民の役割等を明らかにするとともに、ひとにやさしいまちづくりに関する施策の基本方針等を定めた県条例。

※7 グリーン庁舎基準：

グリーン化（官庁施設の計画から建設、運用、廃棄に至るまでのライフサイクルを通じ、環境負荷を低減させること）を図り、建築分野における環境保全対策の模範となる官庁施設の基準（官庁施設の環境保全性に関する基準）

※8 インテリジェントビル：

最先端の建築設備や高度な情報通信機能を持ったオフィスビルといった程度の意味で、「高度情報化ビル」ともいわれています。空調、電気、セキュリティなどの設備をコンピュータ制御で自動化し、建物内に情報通信ネットワークを構築して、オフィスオートメーションに対応できることなどが共通の要素です。情報化によって省エネ、省コストにつながることも要件のひとつとなっています。

※9 ビルディングオートメーションシステム：

空調設備、電気設備、給排水衛生設備、防災・防犯設備及び機械設備（エレベータ等）を総合的に管理するシステムのことで、先端的な情報処理、通信技術が適用されています。室内環境の快適化、省エネルギーの実現、防災・防犯設備の監視、建物管理の省力化などに効果が高く、インテリジェントビルが備えるべきシステムの一つとされています。

※10 コージェネレーション（システム）：

熱と電気を同時に供給することができる熱電併給システムのことで、ガスエンジン、ガスタービン、ディーゼルエンジン等の原動力を使って発電を行いながら、同時に発生する排熱を給湯、冷暖房などに利用するシステム。